

## 第2次秋田市公共交通政策ビジョンおよび第2次秋田市総合交通戦略の進捗評価について

## 1. 成果目標指標管理表

①目標（目標Ⅱは「基本的な方針」）	②施策パッケージ（目標Ⅱは「目標」）	③該当指標名	④番号	⑤データ定義	⑥データ出典	⑦調査頻度	⑧現況値年次	⑨現況値	⑩H27実績	⑪H28実績	⑫H29実績	⑬H30実績	⑭実績を踏まえた今後の方針
目標Ⅰ 歩行者、自転車 が安全・安心かつ 快適に通行できる 空間の整備 の実現	歩行者、自転車 が安全・安心かつ 快適に通行できる 空間の整備	中心市街地の歩行者・自転車交通量	1	中心市街地11地点の歩行者・自転車通行量(日)	秋田市中心市街地活性化基本計画目標指標	毎年	H27	35,056人	35,056人	34,331人	30,753人	30,473人	中心市街地循環バス運行事業などの中心市街地活性化基本計画掲載事業により、にぎわいの創出と回遊性を向上させることで改善を図っていく。
		市内の交通事故死傷者数（歩行者・自転車関連）	2	交通事故死傷者数(年)（人対車、自転車対車の合計）	秋田市交通政策課作成資料（ホームページ公表）	毎年	H26	247人	251人	264人	250人	209人	交通安全に関する広報や街頭指導等により改善した。引き続き啓発活動を行い、交通事故防止に努めていく。
		市内の高齢者交通事故死傷者数	3	高齢者交通事故死傷者数(年)	交通統計（秋田県警察本部）	毎年	H26	174人	201人	238人	232人	227人	高齢者等を対象とした交通安全教室および反射材の普及促進となる街頭キャンペーンの実施等により改善した。引き続き啓発活動を行い、交通事故防止に努めていく。
	にぎわいに寄与する交通環境の実現	中心市街地循環バスの利用者数	4	中心市街地循環バス「ぐるる」利用者数(年)	秋田市交通政策課作成資料（中心市街地循環バスの運行実績）	毎年	H26	52,166人	56,460人	56,728人	59,825人	64,494人	利用者は年々増加しており、PRリーフレットの配布や1日乗車券の販売に加え、Wi-Fi環境や外国語案内の整備により、引き続き利用促進を図っていくほか、「あきた芸術劇場」の開館に合わせて、ルートやダイヤの見直しを検討する。
		中心市街地内の観光入込客数	5	中心市街地内10地点の観光入込客数(年)	秋田県観光統計	毎年	H26	764,131人	715,456人	756,613人	720,454人	728,797人	「秋田犬ふれあい処」の開設による千秋公園の観光客数が増加したこと等により改善した。引き続き、中心市街地循環バス運行事業などの中心市街地活性化基本計画掲載事業により、にぎわいの創出と回遊性の向上を図っていく。
		市民による「まちのにぎわい」満足度	6	「まちのにぎわい」が「よい」「どちらかといえばよい」「ふつう」と回答した割合	しあわせづくり市民意識調査	5年毎	H26	28.6%	—	—	—	—	平成31年度の実績を踏まえ、関係部局と調整し、にぎわいに寄与する交通環境の実現に努めていく。
目標Ⅱ まちづくりと 一体となった、 将来にわたる 持続可能な 公共交通網 の実現	多核集約型の都市構造を形成する公共交通網の整備	路線バス利用者数	7	市内の路線バス輸送人員(年)	秋田市交通政策課作成資料	毎年	H26	7,672千人	7,372千人	7,208千人	7,197千人	7,213千人	高齢者コインバス事業の対象年齢の引き下げ（68歳→65歳）や広報あきたでの呼びかけ、バス案内システムの利便性向上などにより改善した。事業等の継続により、引き続き利用促進を図っていく。
		マイタウン・バス利用者数	8	市内のマイタウン・バス輸送人員(年)	秋田市交通政策課作成資料	毎年	H26	195千人	187千人	173千人	169千人	162千人	上段の記載のほか、各地域の運行協議会において利用促進について検討していく。
	利便性向上、バス路線運営適正化に向けた取組みの推進	市民による「バス、電車などの利用しやすさ」満足度	9	「バス、電車などの利用しやすさ」が「よい」「どちらかといえばよい」「ふつう」と回答した割合	しあわせづくり市民意識調査	5年毎	H26	46.6%	—	—	—	—	平成31年度の実績を踏まえ、令和2年度に予定している第3次秋田市公共交通政策ビジョン等の策定の際に、利便性向上等に向けた取組みの推進について検討する。
		市内のバス運送収入	10	路線バスの運送収入(年)	秋田市交通政策課作成資料	毎年	H26	1,526百万円	1,461百万円	1,424百万円	1,414百万円	1,416百万円	高齢者コインバス事業の対象年齢の引き下げ（68歳→65歳）や広報あきたでの呼びかけ、バス案内システムの利便性向上などにより改善した。事業等の継続により、引き続き利用促進を図っていく。
	持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進	公共交通に関する協議会や検討会に参加した機関・団体数	11	秋田市地域公共交通協議会及びマイタウン・バスの各運行協議会に参加した機関・団体数（重複は除く）(年)	参加状況を独自に集計	毎年	H26	64団体/79団体(81%)	73団体/85団体(86%)	69団体/82団体(84%)	56団体/81団体(69%)	70団体/82団体(85%)	開催日時の調整等により改善した。引き続き、協議会等への参加を促進し、公共交通の維持確保に関する意識啓発を行っていく。
目標Ⅲ 拠点間ネットワークを形成する道路網の実現	多核集約型都市の骨格となる道路網の整備	都市計画道路の整備率	12	都市計画道路の路線延長に対する供用延長の比率（※概成済み延長は含まない）	路線別都市計画道路整備状況	毎年	H26	74.33%	74.46%	74.48%	74.60%	74.70%	第6次秋田市総合都市計画に基づき、道路整備を推進していく。
		市民による「道路の整備状況」満足度	13	「道路の整備状況」が「よい」「どちらかといえばよい」「ふつう」と回答した割合	しあわせづくり市民意識調査	5年毎	H26	69.6%	—	—	—	—	平成31年度の実績を踏まえ、関係部局と調整し、道路環境の向上に努めていく。
	拠点間ネットワークを強化し走行性を高める道路整備	拠点間のピーク時間帯所要時間	14	4地域の市民SCと秋田駅の朝ピーク時の所要時間を計測	秋田市交通政策課担当者が所要時間をストップウォッチにより計測	中間年最終年	H27	40分	40分	—	—	28分	令和2年度の実績を踏まえた上で検討する。
		安全で円滑な交通の実現に向けた取組	市内の交通事故死傷者数（自動車関連）	15	交通事故死傷者数(年)（車対車）	秋田市交通政策課作成資料（ホームページ公表）	毎年	H26	879人	829人	923人	835人	729人
		市内の主要渋滞箇所数	16	市内の主要渋滞箇所数	秋田県渋滞対策協議会作成資料（ホームページ公表）	不定期	H24	36箇所	—	35箇所	35箇所	35箇所	渋滞対策を実施しつつモニタリングを継続する。（秋田県渋滞対策推進協議会資料より）